

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 かえで★すくーる		
○保護者評価実施期間	令和7年1月22日		～ 令和7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和7年1月22日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月27日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ビジョントレーニングを取り入れて、視覚機能が高まる支援を行っている。	トレーニングマシンを使って、色々なプログラムに挑戦している。	マンネリ化しないようにメリハリをつけて、無理せず長期的に継続できるようにしていく。
2	創作活動が得意。またカードゲーム、ボードゲームからルールやかかわり方を学ぶ。	保護者にも働きかけて牛乳パックやカレンダーを集め、工作ができる環境を整えている。子どもたちが好きなゲームを通して、読む計算する力を養う。	道具や教材の工夫。
3	公認心理士、臨床心理士、養護学校や普通学校の元教員、社会福祉士など専門家が集まっている。	ケースにより専門的な対応ができる。	職員が利用者の状況を共有しながら、それぞれが得意分野で力を発揮していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人数に対して活動スペースが狭い	別棟を用意して対応はしている。活動場所を内容で分けることができる。	人数や個性により場所を適宜分けていく。職員の分散も工夫していく。
2	午前中は利用できないことが多い。	営業時間が午後なので、長期休みは1日の日もあるが、基本的には半日になる。	学童で学ぶことも必要であると考えている。受け入れた時に様子を見たり、話を聞いたりして、困りごとは解決をしていく。
3	地域交流ができない	地域との交流を嫌がる保護者がいたり、事業所から外へ出ることが苦手な子がいる。	参加できるご家庭、お子さんだけでも、市町村から発信するイベントに参加する機会を作りたい。